

さとうきび増産に向けた取組の実績及び評価

沖縄県多良間島

増産プロジェクトにおける令和6年産生産計画の達成状況及び今後の取組状況

生産計画の
達成状況等

1 令和6年産の生産実績

	収穫面積 (ha)				単収 (kg/10a)				生産量 (t)			
	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計	夏植	春植	株出	計
H29年産実績	244	-	69	313	8,810	-	5,672	8,118	21,497	-	3,914	25,410
H30年産実績	211	-	101	312	8,971	-	5,937	7,989	18,951	-	6,005	24,956
R元年産実績	207	-	110	317	7,114	-	3,965	6,021	14,726	-	4,362	19,087
R2年産実績	202	-	110	312	9,759	-	6,098	8,468	19,713	-	6,708	26,420
R3年産実績	219	-	144	364	10,154	-	7,204	8,983	22,288	-	10,410	32,698
R4年度実績	183	-	171	354	7,751	-	4,084	5,978	14,180	-	6,993	21,173
R5年増産実績	180	-	145	325	6,825	-	5,138	6,072	12,285	-	7,451	19,736
R6年増産計画	200	-	120	320	8,500	-	5,000	7,188	17,000	-	6,000	23,000
R6年増産実績	232	7	121	361	9,326	5,155	376	8,143	21,637	376	7,360	29,373
(対計画比%)	(116.0)	(0.0)	(101.2)	(112.7)	(109.7)	(0.0)	(7.5)	(113.3)	(127.3)	(0.0)	(122.7)	(127.7)
(対前年比%)	(128.9)	(0.0)	(83.7)	(111.0)	(136.6)	(0.0)	(7.3)	(134.1)	(176.1)	(0.0)	(98.8)	(148.8)
R7年産増産計画	290	-	20	310	8,300	-	4,500	8,100	24,070	-	900	24,970

2 その他指標の動向 令和5年産→令和6年産

・株出栽培の割合	44.6%	→	33.7%	・さとうきび作農家戸数	218戸	→	234戸
・平均糖度	15.3度	→	14.9度				

<p>増産目標に対する位置づけ</p>	<p>令和6年産 生産計画及び実績については、以下のとおりであった</p> <table border="1" data-bbox="510 220 1137 331"> <thead> <tr> <th></th> <th>収穫面積</th> <th>単収</th> <th>生産量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(計画)</td> <td>320ha</td> <td>7,188kg/10a</td> <td>23,000t</td> </tr> <tr> <td>(計画)</td> <td>361ha</td> <td>8,143kg/10a</td> <td>29,373t</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和6/7年度のさとうきび生産量は、29,373トンで昨年の19,735トンと比較すると約10,000トン増産となった。要因として、さとうきびの生育旺盛期にあたる6月下旬～7月中旬にかけて干ばつ気味な気候であったものの、その他の栽培期間中は十分な降雨があったため、夏植え株出しともに生育が良好で、生産量の増に繋がった。5月～6月に黒穂病が株出しを中心に発生したものの、今期は株出し面積割合が少なかったため、大きな減収とならなかった。また、黒穂病により更新したほ場も見られた。近年は、農家の高齢化が進み労働力不足が原因となり夏植面積の割合が減少傾向にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害、品種の偏り、株出しの増による黒穂病の蔓延 ・ 兼業率が高く、高齢化が進行し労働力不足 ・ 島ごとエコファーマーの取組による堆肥及び緑肥を活用した持続的な農業の継続・強化が求められる 		収穫面積	単収	生産量	(計画)	320ha	7,188kg/10a	23,000t	(計画)	361ha	8,143kg/10a	29,373t
	収穫面積	単収	生産量										
(計画)	320ha	7,188kg/10a	23,000t										
(計画)	361ha	8,143kg/10a	29,373t										
<p>令和6年産における取組方針</p>	<p>主なさとうきび生産振興策として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然災害や黒穂病等の病害に強い品種導入、含蜜糖地域特有の品種導入に際して品種構成の適正化を図る ・ 機械化一貫体系の確立およびスマート農業を推進し、労働力の軽減及び担い手の経営基盤の強化を図る ・ 関係機関が連携して、島ごとエコファーマー認定による、継続的な環境負荷低減のための活動への意識向上とエコ黒糖ブランドの認知度を高めていく 												
<p>主要な取組のスケジュール</p>	<p>さとうきび増産対策の具体的な取り組みとして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 島ごとエコファーマーの取組継続に向けて化学農薬・肥料低減、土づくりのための堆肥散布(周年)、緑肥補助(2月) ・ さとうきび生産組合を中心に、関係機関連携の下で基本栽培技術の普及啓発を行う(周年) ・ 地域の実態に即した担い手及び受託組織の体制づくり(周年) ・ 病虫害対策の推進、可動式誘殺灯を活用したアオドウガネ防除とその設置台数適正化に向けた増設、各種事業活用での農薬補助、一斉防除の実施(周年) ・ 収穫作業の合理化を推進するため、各収穫機の稼働実施地区の適正化を図る。(オペレーターの調整、農家への周知) ・ 中核的な担い手を中心とした機械化一貫体系を図る(周年) ・ OCR調査時のさとうきび共済の加入促進(8月) 												

(1) 経営基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																																						
<p>①効率的な さとうきび経営 の育成と労働 力の確保</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中核的なさとうきび担い手の確保のため認定農業者の育成及び申請支援 ・ 新規就農者への経営講習会の開催 <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="477 437 1370 600"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認定農業者</td> <td>23</td> <td>16</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>農業法人</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 兼業率が高く、高齢化が進行し労働力不足 ・ 農業法人の設立及び育成 ・ ビレットプランタ(植付機)及び老朽化に伴うハーベスタの新規導入による労働負担の軽減 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	認定農業者	23	16	13	15	12	18	19	10	農業法人	-	-	1	2	1	1	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定農業者、農業法人、受託組織の育成 ・ 機械化一貫体系の確立およびスマート農業を推進し、労働力の軽減及び担い手の経営基盤の強化を図る ・ 作付調査及びハーベスターの稼働調査に係る労働力負担の軽減を図るため、GISシステムの導入を推進する 																											
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																																																
認定農業者	23	16	13	15	12	18	19	10																																																
農業法人	-	-	1	2	1	1	4	2																																																
<p>②農業共済制 度への加入促 進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫畑の聞き取り時に農家への説明を行い加入促進を図った ・ 共済加入者への共済掛金の一部助成 ・ 干ばつ時における、かん水費用の一部助成(共済加入者のみへの助成) <p>【目標の達成状況】</p> <table border="1" data-bbox="477 959 1370 1329"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 (30年産)</th> <th>H30 (R元年産)</th> <th>R元 (R2年産)</th> <th>R2 (R3年産)</th> <th>R3 (R4年産)</th> <th>R4 (R5年産)</th> <th>R5 (R6年産)</th> <th>R6 (R7年産)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加入戸数 (戸)</td> <td>163</td> <td>142</td> <td>145</td> <td>144</td> <td>132</td> <td>134</td> <td>133</td> <td>135</td> </tr> <tr> <td>戸数引受率 (%)</td> <td>69.7</td> <td>64.3</td> <td>61.4</td> <td>61.3</td> <td>56.2</td> <td>57.0</td> <td>61.0</td> <td>57.0</td> </tr> <tr> <td>引受面積 (ha)</td> <td>226</td> <td>193</td> <td>200</td> <td>222</td> <td>165</td> <td>146</td> <td>194</td> <td>218</td> </tr> <tr> <td>面積引受率 (%)</td> <td>72.4</td> <td>60.8</td> <td>64.1</td> <td>61.0</td> <td>53.0</td> <td>40.1</td> <td>73.0</td> <td>60.0</td> </tr> <tr> <td>共済金額 (千円)</td> <td>246,031</td> <td>218,168</td> <td>231,469</td> <td>257,724</td> <td>257,321</td> <td>-</td> <td>17,753</td> <td>1,420</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者、小規模農家の共済制度に対する理解が十分でない <p style="text-align: right;">注) R4、R5年産の数値については概算値</p>		H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)	加入戸数 (戸)	163	142	145	144	132	134	133	135	戸数引受率 (%)	69.7	64.3	61.4	61.3	56.2	57.0	61.0	57.0	引受面積 (ha)	226	193	200	222	165	146	194	218	面積引受率 (%)	72.4	60.8	64.1	61.0	53.0	40.1	73.0	60.0	共済金額 (千円)	246,031	218,168	231,469	257,724	257,321	-	17,753	1,420	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単位あたり共済金額の個人選択制を推進する ・ 原料代金からの共済掛け金の引き落としを活用 ・ 関係機関の調査に合わせた農業共済制度の説明及び推進
	H29 (30年産)	H30 (R元年産)	R元 (R2年産)	R2 (R3年産)	R3 (R4年産)	R4 (R5年産)	R5 (R6年産)	R6 (R7年産)																																																
加入戸数 (戸)	163	142	145	144	132	134	133	135																																																
戸数引受率 (%)	69.7	64.3	61.4	61.3	56.2	57.0	61.0	57.0																																																
引受面積 (ha)	226	193	200	222	165	146	194	218																																																
面積引受率 (%)	72.4	60.8	64.1	61.0	53.0	40.1	73.0	60.0																																																
共済金額 (千円)	246,031	218,168	231,469	257,724	257,321	-	17,753	1,420																																																

(2)生産基盤の強化

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																				
<p>①気象災害に強い生産基盤の整備</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水源の整備、かんがい施設の整備、防風林整備を促進した ・ 源確保のため集水路の清掃及び整備を行い集水量の確保を図った <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="479 475 1373 738"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 実績</th> <th>H30 実績</th> <th>R元 実績</th> <th>R2 実績</th> <th>R3 実績</th> <th>R4 実績</th> <th>R5 実績</th> <th>R6 見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ほ場整備率</td> <td>85.2</td> <td>86.2</td> <td>88.3</td> <td>93.4</td> <td>97.0</td> <td>100.0</td> <td>93.4</td> <td>93.4</td> </tr> <tr> <td>水源整備率</td> <td>34.8</td> <td>34.8</td> <td>34.8</td> <td>34.8</td> <td>34.8</td> <td>34.6</td> <td>34.8</td> <td>34.8</td> </tr> <tr> <td>畑地かんがい整備率</td> <td>10.5</td> <td>10.5</td> <td>10.5</td> <td>10.5</td> <td>10.5</td> <td>10.4</td> <td>10.5</td> <td>10.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畑地かんがい整備はほとんど未整備であり、ため池等の水源も少ない ・ 台風対策として防風・防潮林の整備が必要 ・ 干ばつ対策の早期取組 		H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 見込	ほ場整備率	85.2	86.2	88.3	93.4	97.0	100.0	93.4	93.4	水源整備率	34.8	34.8	34.8	34.8	34.8	34.6	34.8	34.8	畑地かんがい整備率	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.4	10.5	10.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畑地かんがい整備の拡充促進 ・ 防風林の整備計画を策定し、推進する ・ 干ばつ発生時に迅速な対応が出来るよう、早期の体制整備及び実施のとかん水の重要性を農家に周知
	H29 実績	H30 実績	R元 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 見込																														
ほ場整備率	85.2	86.2	88.3	93.4	97.0	100.0	93.4	93.4																														
水源整備率	34.8	34.8	34.8	34.8	34.8	34.6	34.8	34.8																														
畑地かんがい整備率	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	10.4	10.5	10.5																														

<p>②機械化一貫体系の確立</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫機械の長寿命化を図るため機能向上に向けた事業実施支援を行った ・ 収穫機械の作業受託推進を行った ・ 収穫機械の導入に向けた事業説明会に係る調整を行った <p>【目標の達成状況】 (単位:台、ha、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハーベスタ 稼働台数</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫面積</td> <td>219</td> <td>220</td> <td>241</td> <td>208</td> <td>262</td> <td>249</td> <td>249</td> <td>283</td> </tr> <tr> <td>ハーベスタ 収穫率(面積)</td> <td>70.0</td> <td>70.3</td> <td>76.2</td> <td>66.7</td> <td>72.0</td> <td>73.8</td> <td>76.6</td> <td>78.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 含密糖の品質保持を図りながら地域の実態に即した植え付け(ビレットプランタ等)、収穫機械化体系の確立が必要 ・ 作業受委託体制が未構築であり新植夏植や株出し管理作業が適期に行われない事例が散見される 		H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	ハーベスタ 稼働台数	8	8	8	8	8	8	8	8	ハーベスタ 収穫面積	219	220	241	208	262	249	249	283	ハーベスタ 収穫率(面積)	70.0	70.3	76.2	66.7	72.0	73.8	76.6	78.4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業受委託組織の体制づくりのため関係機関との協議を進める ・ 農業機械の効率的な利用推進、運営委員会等との連携強化を図る ・ 収穫機械の老朽化による収穫効率の低下を改善すべく、機能向上や新たな機械導入を検討する ・ GISシステムの導入により作付及び収穫状況を把握し、植付から収穫までの一括管理を推進する
	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5	R6																														
ハーベスタ 稼働台数	8	8	8	8	8	8	8	8																														
ハーベスタ 収穫面積	219	220	241	208	262	249	249	283																														
ハーベスタ 収穫率(面積)	70.0	70.3	76.2	66.7	72.0	73.8	76.6	78.4																														
<p>③地力の増進</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑肥作物(クロタリヤ・緑肥用ひまわり)の購入補助を行う等有機物の畑地還元による土づくりを実施し ・ ほ場当たりの堆肥の具体的な利用量を示し、活用を推進した ・ 村堆肥施設の生産性や作業効率の向上及び原料の確保を図るため攪拌機の導入をした <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑肥作物と堆肥を使った土づくりに対する理解不足 ・ 島ごとエコファーマーの取組による堆肥及び緑肥を活用した持続的な農業の継続・強化が求められる ・ 堆肥センターの人手不足による堆肥製造の遅れにより生産量が不安定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 堆肥利用の普及啓発を行い、事業等活用し島内での資源循環利用による農家負担の軽減 ・ 緑肥栽培を奨励するとともに、鋤き込みなど受委託作業を確立する ・ 作業員の確保・育成、コンポターン等の機械導入による生産性の安定化を図る ・ 関係機関が連携して、島ごとエコファーマー認定による、継続的な環境負荷低減のための活動への意識向上 																																				

(3)技術対策

項目	取組実績及び課題	今後の取組方向																																													
①病虫害対策	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メイチュウ類・アブラムシ対策のため、一斉防除を実施した ・可動式誘殺灯を設置し、アオドウガネ防除を実施した ・メイチュウ類やアブラムシへの薬剤の散布方法について周知を行った ・黒穂病・メイチュウ類の蔓延防止のため、発生状況調査及び農家への啓発を行った ・メイチュウ類(芯枯れ)の蔓延防止のため一斉防除を実施(12月、3月) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病虫害の多様化に伴い、効果的な農薬利用 ・株出面積の増加に伴い黒穂病が増加している ・誘殺灯の老朽化が進み、設置数が不足しているため島内を網羅出来ていない ・黒穂病の蔓延に伴う夏植切り替え及び発生時の対処への意識が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生予察の強化、関係機関との連携による早期防除対策の実施 ・可動式誘殺灯等の適正数設置及び管理・運用 ・病虫害防除、侵入防止について農家の意識向上を図るための呼びかけ周知を強化 ・セーフティーネット事業等を活用し、誘殺灯の更新を行い島内全域への設置をする事で誘殺数の向上を図る ・エコファーマーでの取組である農薬使用回数低減の意識向上 																																													
②優良品種の選択・普及	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優良品種への計画的な転換を図った ・種苗管理センターからの健全種苗の供給と優良種苗の普及に努めた <p>【目標の達成状況】 (単位:%)</p> <table border="1" data-bbox="477 887 1373 1106"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29 (実績)</th> <th>H30 (実績)</th> <th>R元 (実績)</th> <th>R2 (実績)</th> <th>R3 (実績)</th> <th>R4 (実績)</th> <th>R5 (実績)</th> <th>R6 (実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農林15号</td> <td>18.8</td> <td>6.1</td> <td>1.9</td> <td>1.0</td> <td>0.3</td> <td>-</td> <td>0.6</td> <td>0.3</td> </tr> <tr> <td>宮古1号</td> <td>3.2</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0.3</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>農林22号</td> <td>17.3</td> <td>13.5</td> <td>16.4</td> <td>17.3</td> <td>15.4</td> <td>16.9</td> <td>14.2</td> <td>18.8</td> </tr> <tr> <td>農林27号</td> <td>52.1</td> <td>56.7</td> <td>63.7</td> <td>72.4</td> <td>76.6</td> <td>77.4</td> <td>79.7</td> <td>76.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域適応性品種の選定及び導入に対する理解不足による黒穂病の蔓延 ・自然災害、品種の偏り、株出しの増による黒穂病の蔓延 ・健全無病苗に対するほ場の管理不足 ・黒穂病対策及び機械化を視野に入れた品種構成 ・低単収株出しほ場の増加 		H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)	農林15号	18.8	6.1	1.9	1.0	0.3	-	0.6	0.3	宮古1号	3.2	-	-	-	0.3	-	-	-	農林22号	17.3	13.5	16.4	17.3	15.4	16.9	14.2	18.8	農林27号	52.1	56.7	63.7	72.4	76.6	77.4	79.7	76.2	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害に強い品種導入、含蜜糖地域特有の品種導入に際して品種構成の適正化を図る ・Ni27の比率が高いため、新品種を導入する等品種構成の適正化を図る ・健全無病苗の活用、生産性向上等、苗ほの健全な栽培管理の適正化を図る ・講習会などを実施し、地域にあった優良種苗の必要性や各品種の特性を周知する等普及啓発を行う ・ビレットプランタ植付けに適した新品種の普及 ・低単収株出しほ場の更新促進を図りつつ、連続株出しに適した品種の普及を行う
	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (実績)	R3 (実績)	R4 (実績)	R5 (実績)	R6 (実績)																																							
農林15号	18.8	6.1	1.9	1.0	0.3	-	0.6	0.3																																							
宮古1号	3.2	-	-	-	0.3	-	-	-																																							
農林22号	17.3	13.5	16.4	17.3	15.4	16.9	14.2	18.8																																							
農林27号	52.1	56.7	63.7	72.4	76.6	77.4	79.7	76.2																																							

<p>③栽培技術の普及等</p>	<p>【実施した取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さとうきび優良事例、広報機関誌を活用した普及、啓発を行った ・かん水ほ場の設置による増収効果のPRを行った ・堆肥を活用した新たな施肥体系の検討のため、実証展示ほを設置し、検証を行った ・駐在情報誌により、土壌処理剤の普及を図った <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に適した品種の普及を促すためにも、品種特性を活かした適期植付及び管理 ・環境負荷低減のための活動への意識向上を推進すべく、島ごとエコファーマーを意識した栽培技術の励行 ・単収向上を図るためにも、管理作業など、作業に遅れが発生しないよう適期管理の推進 ・化学肥料施用量低減のため、堆肥を活用した新たな施肥体系の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培講習会の実施により、基本的栽培技術の指導強化 ・農作業受託組織の体制づくり、機械化一貫体系の構築を推進する ・エコファーマーの栽培指標に準じ、化学農薬・肥料の使用量低減、有機物投入による土作りの取組意義の周知を図る ・堆肥を活用した新たな施肥体系の検討のため、継続して実証展示ほを設置し、検証を行う
------------------	--	---